

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

目 次

<高知市地域>	P 1 ~ 1 6
-------------------	-----------

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立でが数量的に見える形で示すこと>
<p>1-1 地域の基幹品目の振興(①キュウリ②メロン)</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまどまりのある産地の維持を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術の高位平準化 ・産地のまとまりづくり ・難防除病害虫対策の確立 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 	<p>農業生産体制強化緊急整備事業申請 キュウリ袋詰め機、堆肥散布機、事業費1,937万円 まどまりのある園芸産地育成事業 現地検討会の開催:(キュウリ)2回、(メロン)3回 ミネキアザミマダ野外発生調査の実施:4カ所×24回(4/1~11/30) 黄化エンボ病対策協議会の開催:2回 新規登録薬剤(アークランド)散布試験の実施:(メロン)果実品質査定会2回</p>
<p>1-2 地域の基幹品目の振興(①トマト②イチゴ)</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまどまりのある産地の維持を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 <ul style="list-style-type: none"> ①トマト②イチゴ ・難防除病害虫対策 ②イチゴ ・有望品種の導入と転換 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ②新たな販路開拓 	<p>まどまりのある園芸産地育成事業 ②現地検討会の開催2回 ・病害虫発生情報提供 ・有望品種を主体とした栽培管理情報 ・天敵導入時の情報提供</p> <p>イチゴ(加工用)の新たな販路について業者との協議の場の設定および情報提供</p>
<p>1-3 地域の基幹品目の振興(新高ジャズ)</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまどまりのある産地の維持を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・みつ症対策 ・産地の将来ビジョン作成 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ・まるはりブランドの確立 ・流通チャネルの維持拡大 ・下級品の加工仕向け(生産量650tの約2割130t) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県高品質果実生産モデル事業(非破壊糖度計、遮光ネット)の採択 事業費255万円 ・生産技術課題試験ほの設置 ・産地協議会結成ならびに産地計画作成支援 ・流通販売チャネルの確保 ・系統流通の協議 ・加工・販売に関するコーディネート ・高知県加工食品パッケージデザイン支援事業の採択 事業費500千円(補助金400千円)
<p>1-4 地域の基幹品目の振興(①ユリ②グロリオサ)</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまどまりのある産地の維持を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・基本的な栽培技術の徹底 ・病害虫防除の徹底 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆まどまりのある園芸産地育成事業(三里、春野) 研修等の開催:7回 ①ユリ(春野) 50千円:7回 ②グロリオサ(三里) 50千円:4回 ◆高知の花きモニタリング事業(三里、長浜)の導入 産地による市場アンケート調査 ①ユリ(長浜):11月末予定(関西1社) ②グロリオサ(三里):1回(関東2社)
<p>1-5 地域の基幹品目の振興(水稲)</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまどまりのある産地の維持を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・実証ほの設置・調査 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ・「南国そだち」の販売促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県農業生産体制強化緊急整備事業採択 大津RC乾燥機 事業費4,005万円 ・実証ほの設置 水稲奨励品種決定試験「供試品種7品種」 「南国そだち」の植付時期・植栽密度及び肥料試験 「コンヒカリ」「南国そだち」5割減栽培試験 ・現地検討会、部会の開催14回 ・「南国そだち」の販売促進
<p>2 ショウガの安定供給と消費拡大</p> <p>基幹品目であるショウガ(露地ショウガ、ハウスショウガ)の安定生産と供給、第二次産業との連携による消費拡大とPRのための取組を進め、農家所得の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆安定生産と供給 <ul style="list-style-type: none"> □臭化メチル代替土壌消毒技術の実証と普及 □いもち病防除対策の検討 □貯蔵庫の増設 □洗浄機の増設 ○生産技術の高位平準化 ○高温期の品質安定 ◆第二次産業との連携による消費拡大とPR <ul style="list-style-type: none"> □エコシステム栽培認証取得 □「こうち環境・安全・安心チェックシート」の実施 ○消費拡大やPRを担う組織体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・臭化メチル代替技術実証ほ設置・調査(戦略品目等技術実証事業)、品目別研究会開催(1回) ・いもち病の物理的防除対策実証ほ設置・調査(ステップアップ土づくり事業)、JA広報での情報提供 ・役員会での指導・啓発・情報提供(2回) 現地検討会、研修会での指導・啓発・情報提供(3回) ・農商工連携強化支援 露地ショウガの加工素材としての特徴をPR ○こうち農業確立総合支援事業の採択 新ショウガ洗浄機(事業費2,033万円) ○現地検討会の開催(新ショウガ:2回) ○高温期の品質低下要因の調査・検討:調査期間(6月~9月)、要因検討(反省会1回) ○女性組織の立上げ支援 ○加工品開発と販促支援 ショウガゼリーのPR(ふるさとまつり等) 高知県パッケージデザイン支援事業採択 400千円

<p>アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと></p>	<p>アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと></p>	<p>目標(H23)</p>
<p>事業採択に向けて協議中</p> <p>現地検討会:キュウリ(進捗率40%、参加人数90人) メロン(進捗率60%、参加率62%) 発生状況の確認(進捗率75%)</p> <p>課題と対策を共有できた(進捗率100%) 果実品質査定会(進捗率66%)</p>	<p>黄化エソ病発生状況(前年同時期の1/3)</p> <p>新規登録薬剤使用農家率(30%)</p>	<p>主業農家に占める認定農業者の割合(45%) 基幹10品目の販売額 (99億円)</p>
<p>②現地検討会(進捗率50%、参加率 87%) ②「さがほのか」等管理技術の周知(参加者14名)</p> <p>②新たな取引候補:3社選定(進捗率33%:協議済1社)</p>	<p>②有望品種「さがほのか」導入面積1ha→2ha</p> <p>②下級品(C品)の販路開拓を合意(加工用)</p>	<p>◆主業農家に占める認定農業者の割合 (45%)</p> <p>◆基幹10品目の販売額 (99億円)</p>
<p>非破壊糖度計1台(進捗率100%) 遮光ネット導入1.15ha(進捗率50%) 優良果実袋の選定 果樹生産構造改革計画作成</p> <p>「まるはり」による高付加価値販売(県外百貨店等28店舗) 系統販売開始(園芸連特販課) リキュール、シャーベットの試作と商品化(2加工業者との連携) リキュールラベルの作成</p>	<p>信頼性の確保(利用3t)</p> <p>選定果実袋次年度利用予定割合 % 計画認定</p> <p>「まるはり」実販売実績:2792kg(昨年比94%) 園芸連への系統販売実績:225kg(昨年0kg) 生産販売実績あるいは果実加工実績 t リキュール 本、シャーベット 個</p>	<p>主業農家に占める認定農業者の割合(45%) 基幹10品目の販売額 (99億円)</p>
<p>◆まとまりのある園芸産地育成事業 研修会の開催 ①ユリ(春野):(進捗率 70%、参加率 100%) ②グロリオサ(三里):(進捗率 80%、参加率73%) ◆土佐の花きモニタリング事業 ①ユリ(長浜):モニタリング調査(進捗率 20%) ②グロリオサ(三里):モニタリング調査(進捗率 50%)</p>	<p>②グロリオサ 秀品率 41%(H21.3月~8月)</p> <p>①②モニタリング調査を通じてマーケットインの視点が増えた。</p>	<p>主業農家に占める認定農業者の割合 (45%) 基幹10品目の販売額 (99億円)</p>
<p>・20年産早期稲の一等米比率 南国そだち78%、ナツヒカリ56%、コシヒカリ1.8%</p> <p>・現地検討会・部会の開催(進捗率70%、参加人数210名)</p>	<p>・「南国そだち」の栽培面積拡大 6ha → 34ha</p>	<p>主業農家に占める認定農業者の割合 (45%) 基幹10品目の販売額 (99億円)</p>
<p>・代替技術等の防除効果の実証と導入に係る課題整理と周知160名(進捗率70%)</p> <p>・防除効果の実証とJA広報(9,500部発行)での情報提供(進捗率60%)</p> <p>・役員会、現地検討会・研修会 出席者160名(進捗率80%)</p> <p>・食品産業研究会(県内加工業者等参加者約50名出席)</p> <p>・洗浄機の増強8台→10台(進捗率100%)</p> <p>・現地検討会の開催(進捗率66%、参加率100%) 品質低下要因のピックアップ(進捗率100%)</p> <p>・女性組織の立上げ(進捗率100%) ○ふるさとまつりでの試食販売 538セット販売</p>	<p>・臭化メチル代替技術の導入(ha)、臭化メチル使用量低減技術(難透過性フィルム)の導入(6ha)</p> <p>・いもち病の物理的防除対策導入生産者(戸)</p> <p>・エコシステム栽培認証(名) こうち環境・安全・安心チェックシート実施(名)</p> <p>・1日当たりの出荷可能農家の増加(32人→40人)</p> <p>○好評につき、本格販売が前倒し12/1~</p>	<p>ショウガの販売額(23.3億円) うち露地(11.8億円) うちハウス(11.5億円)</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立でが数量的に見える形で示すこと>
<p>3 ユズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大に対応できる施設整備や担い手の振興策等の「ユズ振興総合対策」の実施により、中山間地域の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ユズ搾汁施設の整備 ◆優良母樹の確保と優良苗の生産供給体制の整備 ◆出荷予測システムの見直しによる予測精度の向上と販売強化 ◆有機に準じた栽培支援 ◆ユズ振興計画の実現 	<p>競争力強化生産総合対策事業(強い農業づくり交付金)と高知県産業振興推進総合支援事業の採択(事業費23,940万円)</p> <p>果実加工需給安定化緊急対策事業の採択</p> <p>優良複製母樹探索調査(のべ18人)</p> <p>(ほ場選抜3ほ場250本、1次選抜12本、2次選抜7本)</p> <p>出荷予測定点ほ場調査(4ほ場)</p> <p>ユズチーム会の開催(7回)</p> <p>果汁特性調査(5回)</p> <p>栽培技術等研修会(11回)</p>
<p>4 中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル集落の育成 ・集落営農組織の確立とレベルアップ ・担い手確保 ・中山間地域での園芸振興 	<p>中山間集落営農等支援事業の採択(事業費544万円)</p> <p>こうち型モデル集落育成支援事業</p> <p>集落座談会等の開催(21回 参加204人)</p> <p>県職員55人、市職員26人、JA2人(延べ)</p> <p>ユズ栽培の導入啓発と管理指導(研修会等4回)</p>
<p>5 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>全国的に希少価値の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産と地域加工の促進 ・鮮度保持対策 ・作業効率の高い機械の導入 ・栽培技術の向上 	<p>中山間地域集落営農等支援事業の採択(事業費:ポイラー230万円、チップシュレッダー314万円)</p> <p>品質保持調査と中長期保存方法の検討(消費期限、低温殺菌等) のべ24回、120人</p> <p>栽培技術研修会の開催(2回)</p>
<p>6-1 鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と菓草の里づくり</p> <p>「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆有機市民農園の開設 「消費者意識の醸成によるECO農産物の消費拡大」 ・市民農園の開設 	<p>市民が有機農業を体験できる機会の創出のため、有機市民農園を開設</p> <p>・高知県地域づくり支援事業採択(県補助金1,750千円)</p> <p>・有機市民農園開設事業(4,382千円)</p> <p>・有機市民農園管理委託(602千円)</p> <p>・現況確認(3回/週)</p>
<p>6-2 鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と菓草の里づくり</p> <p>「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。</p>	<p>流通・販路の整備と新たな仕組みづくり「流通・販路の整備(安定的に消費者にECO農産物を届けるための既存販路支援と新たな流通モデルの確立)」</p>	<p>①既存販売拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニックマーケットの継続運営支援(現地調査5回、会議後援2回) <p>②新たな流通モデルの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物流通促進事業の予算事業化作業 ・地方の元気再生事業に採択(事業費262万円) ・有機農産物の企画販売店舗の決定(リストアップ作業、現地調査10回、企業打ち合わせ2回)
<p>6-3 鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と菓草の里づくり</p> <p>「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●鏡川源流域での有機の里づくり 鏡川直販組合での生産履歴記載の啓発 ■薬用植物栽培の導入 栽培者の振り起こし、啓発 	<p>鏡川直販組合研修(総会、研修会、視察)のべ4回</p> <p>検討会、ほ場調査のべ4回</p>

<p>アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと></p>	<p>アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと></p>	<p>目標(H23)</p>
<p>加工調整施設の機能強化(進捗率100%) 搾汁能力の向上(1.25t→5t/時間)</p> <p>産地全体で、3円/1kg、最大255万円を獲得 複製母樹2系統7樹選抜(進捗率100%)</p> <p>生産予測(前年対比118%)</p> <p>果汁特性調査(進捗率60%) 研修会参加者数196人</p>	<p>フル操業続く(処理能力30tに対し、40t) 搾汁率(16.4%→ %)、経済効果(万円)</p> <p>約5000本分の穂木を採取</p>	<p>ユズの販売額 1.7億円</p>
<p>梅ノ木で協業組織が設立された。 試験栽培の開始 栽培面積:ソラマメ 5a、加工用ワサビ 1a 目標単収:ソラマメ 1.5t、加工用ワサビ 3t 目標粗収益:ソラマメ 20万円、加工用ワサビ 6万円</p> <p>こうち型集落営農2集落で、75a分のユズ苗木が導入された。</p>	<p>協業での園芸作物の生産、農産物加工、受委託組織体制が整備 できたモデル地区ができた。今後、地域での協業生産の拡大と他 地区への波及が期待できる。</p> <p>技術の習得効果がみられ、 %の苗木が良好な生育となってい る。</p>	<p>モデル 2組織 集落営農 10組織</p>
<p>高性能ボイラーの導入(進捗率100%) テーパーシュレッダーの導入予定(進捗率50%)</p> <p>品質保持及び中・長期保存に関する調査データの蓄積中</p>	<p>効率的な加工ができており、収穫量・処理量とも前年よりやや多い 見込み。 七ツ淵 処理実績 55t 販売額 約2000万円 塩蔵、真空包装等、出荷方法の幅が増えつつある。</p> <p>地区全体の加工場の検証と保存方法の改善につながり始めた。</p>	<p>四方竹の販売額(七ツ淵) 2,000万円</p>
<p>高知市有機市民農園(長浜宇賀)の開設により、消費者(利用者)が有機 農業に親しむ機会を得た(進捗率100%) ・全体面積=約4,000㎡ ・区画面積=50㎡×50区画 ・利用者数=市民約47名+横浜新町小学校540名</p>	<p>・消費者(利用者)と農業者(管理する高知県有機農業研究会)が 農園を通じて交流を深めている</p>	<p>有機JAS農業者数(累計)、 5事業者</p>
<p>①既存販売拠点の整備(進捗率80%) ・オーガニックマーケットの移転先確定</p> <p>②新たな流通モデルの構築(30%) ・有機農産物流通促進事業の予算作業中 ・企画販売予定</p>	<p>①既存販売拠点の整備 ・オーガニックマーケットの継続開催のメドがつき、有機農産物の 販売拠点の一つとなることが期待される。</p> <p>高知市地域有機農業推進協議会の設立</p>	<p>有機JAS農業者数(累計)=5事業者</p>
<p>研修会への参加者125人</p> <p>ほ場調査への参加者55人 ホソバオケラの試験栽培を検討中。7a</p>	<p>鏡村直販組合で、栽培履歴の記帳を推進する方針が明らかにな った。</p>	<p>有機JAS認定事業者数(累計) (5事業者)</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>7 「田舎レストラン」による地産地消の推進</p> <p>安全・安心な地域農産物を利用した料理を提供する「田舎レストラン」を開設し、地産地消を推進する。</p>	<p>◆「田舎レストラン」の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市計画法の建築許可 建築基準法の確認済証 提供メニューの開発 レストランのニーズ調査 経営収支の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画法第42条第1項の規定による建築等の許可申請、建築確認申請チーム会、アンケート調査、規模・経営収支の検討 等 メニューの検討(のべ5回) 来店者、組合員へのアンケート調査 414人
<p>8 稲ホールクロップサイレンスを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活</p> <p>●稲WCS(稲発酵粗飼料)の生産・供給により、酪農家の粗飼料自給率の向上を図るとともに、稲WCSを給餌した生乳として付加価値を高めることで、酪農家の経営安定を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●耕種農家(稲生産者)と畜産農家(酪農家)の連携両者共収益がでるシステム ●高価な専用機械の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●耕畜連携会議 ●昨年来より稲生産者(耕)での検討会、酪農家(畜)の検討会及び耕畜両者の検討会を重ねる。 ●総合補助金(国補への上乗せ)の事業採択
<p>9 乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>●地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●菓子製造・販売の経営戦略 ●製品開発 ●販売促進 ●牧場の触れあい機能及び地域 との連携 ●経営費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●産業振興アドバイザー制度の活用 ●アドバイザー・牧場チーム会を6回開催。 ●総合補助金の事業採択(申請)
<p>10-1 民有林における間伐の推進</p> <p>◆建設業者等の業種と連携した「森の工場」による間伐を推進し、放置林の解消につなげる。</p>	<p>◆コラボレーション型「森の工場」の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆森の工場設定等のため説明会を7回及び現地調査を1回行った。 ◆森林整備、作業道開設計画等の個別指導を行う。
<p>10-2 民有林における間伐の推進</p> <p>◆個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進により、放置林の解消につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆民有林版協働の森のシステム確立 ◆協定参加民有林の募集 ◆協定参加企業の募集 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知市民有林版協働の森検討委員会の設置 ◆検討委員会委員の選任 ◆第一回検討委員会の開催
<p>11 県産材の地域における需要拡大</p> <p>◆県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材、木製品の地産地消を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆県産材利用推進方針に沿った各部局の取組 ◆県産材利用推進方針に沿った各市の取組 ◆県産材利用の民間への波及 	<ul style="list-style-type: none"> ◆木材使用を推進するための新工法の普及 ◆既存事業における木材使用可能箇所の追加 ◆公共工事における木材使用量の拡大

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> 高知市都市開発審査会承認 地域食材を使ったメニュー開発(30品) レストラン利用希望(90%) 	<p>「春の里」への総菜、弁当の出品を検討し始めた。出品を通じて、組合員や消費者の評価を得ながら、将来のレストラン整備を模索することとなった。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 耕畜連携 <ul style="list-style-type: none"> 6月30日の耕畜連携会議で、両者の合意が成立。21年度20ha、23年度目標30haに向けて7年間の契約を結ぶ。 ● 専用機械を導入 <ul style="list-style-type: none"> 9月23日納品。すぐに再生稲の収穫に取りかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 耕畜連携 <ul style="list-style-type: none"> 水田利活用自給力向上事業で稲WCSIに8万円/10a、今年助成の2倍超の水準に。この事業も基に来年以降、作付け計画に弾みが予想。 ● 21年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 再生稲 15ha 二期作稲 5ha 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成23年目標 <ul style="list-style-type: none"> 飼料稲の栽培面積 30ha
<ul style="list-style-type: none"> ● アドバイザー・チーム会 <ul style="list-style-type: none"> 大原一郎フードプロデューサーを招聘 経営及びマーケティング分析を基に菓子製造・販売を企画。 ● 総合補助金交付申請 	<ul style="list-style-type: none"> ● アドバイザー・チーム会 <ul style="list-style-type: none"> 商品試作及び製造・販売研修 3月下旬の開店に向けての商品等準備 ● 総合補助金の交付決定を基に、機器類を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 菓子類の販売額500万円 (補助金圧縮損益分岐売上 777万円/年)
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 森の工場の1団地新設(847ha)。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ H21当初253ha→年度末1,100ha。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 間伐の実施面積1,970ha
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県版協働の森との調整 ◆ J-VER制度の導入の検討 		<ul style="list-style-type: none"> 間伐の実施面積 1,970ha (◆ 民有林版協働の森の設置)
<ul style="list-style-type: none"> ◆ サバイバルウッド工法の採用 ◆ 作業道における丸太組工法の量的拡大 ◆ 公共工事における木材利用の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公共工事における木材利用の普及の拡大 ◆ 民間需要開拓のための「高知市里山の家構想」の検討 	<ul style="list-style-type: none"> (◆ 木製型枠の使用率100%) (◆ 工事用資材の木製品使用(看板、バリケード)は100%)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <請じた手立でが数量的に見える形で示すこと>
<p>1.2 木質バイオマスの活用に向けた取組</p> <p>木質バイオマスの需要先の発掘や推進体制の整備等により、林地残材などの未利用資源の有効活用につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆個別具体的な需用者の発掘 ◆農業分野での具体的な需用者開発 	<ul style="list-style-type: none"> ◆需用者開発(ペレットボイラ設置)に向けて ◆「実証試験」の提案 ◆農業用(小規模)ボイラでは全てのペレット種別に対応した機器がないためペレット種別毎の特性(機器との相性)を調査+利用状況(重油ボイラに引けを取らない)を農家にPRして需用者開発を推進 ◆加速化事業(林野庁)活用 ◆ボイラ等整備 ◆加速化事業&グリーンニューディール事業活用
<p>1.3 竹バイオマスの有効活用</p> <p>◆高知市の取り組む「竹資源の有効利用を基本としたバイオマスタウン」は、荒廃竹林の適正管理、新規地域産業の育成・雇用の創出、二酸化炭素の削減等、多様な効果と同時に多面的に発揮させ地域活性化にも資するものである。また本プロジェクトは竹林荒廃問題を抱えている地方自治体の課題解決方法の先駆者としての役割を果たすものでもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆荒廃竹林の解消 ◆竹バイオマスプラントの規模 ◆竹バイオマスプラント建設予定地の選定 ◆竹材搬出方法 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知市バイオマスタウン構想策定 ◆高知市バイオマスタウンプロジェクト委員会の設置
<p>1.4 森と海をつなぐ取替型木柵魚礁の設置</p> <p>間伐材利用の取替型木柵魚礁の設置を拡大することにより、漁業所得の向上を図るとともに海洋環境と深く結びついている森林の保全に対しても貢献を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆魚礁整備に対する漁業者の意識 ◆来年度、国庫補助事業に実施の有無が不透明 	<ul style="list-style-type: none"> ◆操業日誌記帳(漁獲効果の把握による費用対効果の検証)に係る漁協への働きかけ ◆水産試験場調査船による高知市沖魚礁群(木柵魚礁含む)の現況調査(正確な位置、配置)の実施 ◆水産庁事業に係る情報収集
<p>1.5 高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進</p> <p>高知県漁協の直販所「海の漁市」において販売活動を展開し、地域産物の売り上げを伸ばす。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 直販所PR、販売促進グッズの作成 2. 販売に関する人材育成、ノウハウの確立 3. 地域イベント協同の魚食普及 以上、戦略に基づく「高知県1漁協流通販売強化事業」成果の効果的活用。 4. 地域産物の加工品の製造・販売の検討はアクションプランNo.15の「底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大」成果の効果的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実行支援チーム会議(4回) ◆販売拡大戦略会議(1回) ◆地域内主産地水揚げ支所での聞き取り調査(1回)
<p>1.6 底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大</p> <p>高知市御堂瀬地区の底曳網による主要漁獲物である沖ワカメ・メヒカリの消費拡大に向けた取り組みを進め、漁業経営の安定化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域協議会とねえやん御堂瀬の組織体制の確立 ◆ねえやん御堂瀬加工技術向上 ◆空き家利活用に向けた情報収集 ◆加工品試販、マーケット調査 ◆都市対流促進方針検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆たるばあやって御堂瀬ん会(10回) ◆ねえやん御堂瀬定例・臨時会(9回) ◆ねえやん御堂瀬加工研修(4回)、自主研修(15回) ◆空き家調査(2回)
<p>1.7 冷凍ドロマの販路拡大</p> <p>◆冷凍ドロマの販路拡大を図り、生産量を増やすことにより漁家所得の安定や向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆実証実行組織の設立 ◆実証計画の策定 ◆陸上技術者(1名)の雇用対策 ◆冷凍ドロマ加工以外の業務 ◆採算制の実証 ◆実証を行うにあたっての必要最小限の機器類、設備類の整備計画 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実行支援チーム会議(4回) ◆実証実行組織設立検討会支援(理事会等含めて、計10回) ◆実証実行組織「春野冷凍ドロマ加工グループどろめっこ」活動支援会議 5回 活動支援 1回

<p>アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと></p>	<p>アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと></p>	<p>目標(H23)</p>
<p>◆実証事業(進捗率 0%) ・早急な実用機導入は困難でも、将来につながるモデルとして運用が出来る実証試験を森技Cと共同提案(加速化事業)したが、実用機導入要望多数にて不採択 ◆ペレットボイラ等整備(進捗率 10%) ・加速化事業・グリーンニューデール事業にて実用機導入要望調査実施 県下100基超(農業用)の要望があったが、高知市Bでは無し 別途、養鱈事業者から1基の要望あり (ペレット利用量=200t/年)</p>	<p>◆本年度目標(具体的なプレーヤーを見いだす) 農業をターゲットに需用者開発を行ったが、成果を見いだすに至っていない。 ↓ ・高知農政から再度JA高知市・土佐山地区農家に要請する ・高知市森組の林地残材バイオ利用を検討 (結果は11月中に判明) 成果がなければ、具体のプレーヤーを見出せるまで プラン凍結も検討</p>	
		<p>(◆荒廃竹林の解消) (◆竹バイオマスプラントの建設)</p>
<p>・操業日誌記載の依頼を通じた漁業者の意識の把握 ・現況調査結果の漁業者への提供(今後予定)</p>		
<p>◇ 県漁協流通販売強化策全体の一部としての位置づけが明確化 ◇ 地域内産地は直販所へ供給できる加工品等の生産体制強化が明確化</p>		<p>高知県漁協の直販所「海の漁心市」での販売額(H20開設) 1.5億円</p>
<p>6月18日:食育授業実施(御臺瀬小学校) 地区美化活動(毎月1回) 10月25日:ねえやん御臺瀬祭り&岡林信康コンサート(約800人) 販売商品(えび入りてんぷら、てんぷら揚げ、沖ウルメフライ、メヒカリ唐揚げ、すり身ぎょうざ) 12月7日:アドバイザーによる祭りアンケート結果分析、空き家実態調査</p>		
<p>7月22日、漁協内検討組織の設立決定(理事会) 9月25日、実証実行組織「春野冷凍ドロマ加工グループ、どろめっこ」設立 10月18日 第1回実証活動 春野さんさん黒潮市への出店</p>	<p>10月18日、春野さんさん黒潮市に出店 ・当日売上 約15万円 後日販売売上 約16万円 計 約32万円 販売商品:ドロマ汁、沖ウルメすり身てんぷら、 沖ウルメすり身、沖ウルメ干物、朝どれ魚 11月 春野さんさん黒潮市活動実績の分析・検討 12月6日 土佐漁村起業交流会への参加(試食品の提供)</p>	

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立でが数量的に見える形で示すこと>
<p>18. うち販路拡大チャレンジ事業の充実</p> <p>○事業概要 地域産品の県外への販路拡大に向けた取組を進め、外貨を獲得することにより、産業の活性化につなげる。 (現在高知市が実施している「高知市販路拡大チャレンジ事業(旧うち販路拡大チャレンジ事業)」について、充実を図る)</p>	<p>○同様の事業に取り組む県と市の連携強化 県・市とも、スーパーマーケットトレードショーへの出展を予定しており、より効果的な企業支援につながるよう、県と市が連携を強化する必要がある。</p>	<p>○見本市への県・市ブースの設置(予定・1回) ・スーパーマーケットトレードショー(東京都) ○見本市出展企業を対象にしたセミナーの開催(2回) ○うち販路拡大チャレンジ事業助成金の交付(半期ごとに2回)</p>
<p>19. 土佐のものづくり企業による地産外商の推進</p> <p>○事業概要 機械・金属を中心とした「ものづくり企業」の受注拡大や販路拡大に向けた取組により、地産産業の活性化を図り、雇用機会の増大を目指す。 商談会の開催 県外見本市への出展 受注企業名簿の作成 PRによる受注企業紹介</p>	<p>○行政機関・支援機関が一体となった企業支援体制の確立 商談会の開催や見本市への出展がより効果的な企業支援となるよう、各機関との連携・調整が必要である。 (商談会) ・県内受注企業に合った発注企業の開拓(見本市) ・販路開拓効果の高い見本市の選定 ・受注企業名簿の活用</p>	<p>○県外での商談会の開催(2回) ・企業交流会(尾道市) ・四国三県合同商談会(徳島市) ○見本市への高知県ブースの設置(2回) ・関西機械要素技術展(大阪市) ・メッセナゴヤ2009(名古屋市)</p>
<p>20. 工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化</p> <p>○事業概要 販路の拡大や経費節減、人材育成に関するセミナーや研修など、企業等の課題に対応する情報の一元的な提供により、競争力の強化につなげる。</p>	<p>○県の製造業ポータルサイトの発注の遅れ 情報システム開発にかかる事前協議の遅れ等、内部手続きに時間を要し、ポータルサイトそのものの発注が遅れ、オープン予定が22年1月末→22年3月末にずれ込む見込みとなった。</p> <p>○関係支援機関との情報共有 一元化した情報を提供するツールとしてポータルサイトを活用するが、情報を一元化するための仕組みづくりをどうするか。 (各支援機関同士の連携及び情報提供のあり方をどうしていくか)</p>	<p>○高知県製造業ポータルサイトの構築(委託事業) 22年3月末の正式オープンを目指し、構築作業中。 (サイトの構築・会員企業の募集・受注企業名簿の作成等)</p>
<p>21. 消費者の目から見たエコ商品の育成とブランド化</p> <p>◆環境に配慮した商品市場において、消費者のニーズに対応するため、市場調査やモニター調査の実施ならを通じて、消費者の購買意欲を高めるエコ商品作りを促進する。</p>	<p>◆事業実施主体である高知エコデザイン協議会におけるエコ商品の発掘、認定、支援のサイクルが活発に行われること。</p>	<p>◆エコデザイン協議会幹事会に参加し、実施主体であるマーケティングプロジェクト(MP)委員会の体制構築についての要請、協議を行った。 ・幹事会参加 7回</p>
<p>22. 「食材王国うち」を目指した食材タワー構想 3-1</p> <p>県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって「地産地消」「地産外商」「1.5次産業」「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国うち」の実現を目指す。</p>	<p>関係機関との事業調整 ・具体的事業の確定 ・取り組み可能なメンバーの選定</p>	<p>◆うちの食材のデータベース化 関係機関と調整及び意見交換を行った。また、県がふるさと雇用で行っている類似事業の内容を確認し、県事業との重複及び高知市規模での事業性を検討。</p> <p>◆空き店舗を活用した中心商店街での新商品のPR(1.5次産業) 【AP 26 中心商店街でのアンテナショップの開設】の事業内容を確認し、重複を検討。</p>
<p>22. 「食材王国うち」を目指した食材タワー構想 3-2</p> <p>県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって「地産地消」「地産外商」「1.5次産業」「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国うち」の実現を目指す。</p>	<p>①消費者に信頼されるための食品表示 ②食材を活用したホテル・飲食店の紹介によるPR(地産地消) ③ポータルセールスによる海外への売込み(地産外商) ④食品加工設備の整備に対する支援(1.5次産業)</p>	<p>①食品表示のセミナーの実施 ②県がふるさと雇用で行っている類似事業の内容を確認し、県事業との重複及び高知市規模での事業性を検討。 ③県の事業と統合を検討する。 ④基礎調査の実施</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
<p>○見本市への参加企業数 ・高知県ブース:10企業 ・高知市ブース:3企業</p> <p>○セミナーへの参加者数 ・第1回:44名 ・第2回:32名</p> <p>○こうち販路拡大チャレンジ事業補助金の交付企業数(交付金額) ・上半期:5企業(総額843千円) ・下半期:7企業(総額1,000千円)※予定</p>	<p>○見本市参加企業の商談中(及び商談成立)件数 (未実施:H22.2月予定) ※目指す成約(商談成立)件数:1社あたり1件以上</p>	<p>(・商談会や見本市への参加を促すことによる高知市モノづくり企業の認知度向上・売上の増)</p>
<p>○商談会への参加企業数 ・参加発注企業:延べ43社 ・参加県内企業:延べ58社</p> <p>○見本市への参加企業数 ・関西機械要素技術展:3社・2企業団体 ・メッセナゴヤ2009:7社</p>	<p>○商談会参加企業の商談中(及び商談成立)件数 ・62件</p> <p>○見本市出展企業の商談中(及び商談成立)件数 ・関西機械要素技術展:10件 ・メッセナゴヤ2009:6件+α(確認中)</p>	<p>(・高知県企業の認知度向上) (・商談会での競争力強化(技術力、提案力等))</p>
<p>○ポータルサイトにおける仕様の確定 以下の仕様を確定し、製造業ポータルサイトに、当初掲載する予定になかった「一元化した情報の提供」という機能を担保した。</p> <p>「行政・支援機関及び掲載企業からのお知らせ機能」 ・行政や支援機関及び会員など特定のものだけが、ポータルサイトを閲覧した人に情報提供可能な機能を提案してください(閲覧の制限はなし)。</p>	<p>○一元化された情報の提供(ポータルサイトにて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支援機関が主催する経営等に関するセミナー情報 ・販路拡大に向けた商談会・見本市等への出展情報 ・行政機関等が策定する産業振興支援策 ・その他 	<p>(◆高知県製造業ポータルサイトにて、企業に有益な情報が支援機関より遅滞なく提供される。)</p>
<p>◆MP委員会の体制構築は出来ていないが、幹事会での会員企業のプレゼンテーションを通じたPR等の支援、その中から成長分野育成支援研究会(環境等)への誘導といった新たな取組みの方向が出てきた。</p>		<p>「エコロンマーク」(エコブランドマーク)貼付商品:10企業10製品</p>
<p>◆こうちの食材のデータベース化 高知市内のみの食材データは各ホテルで収集しており、事業としての進展は難しく、また市内の食材データだけでは、材料が少ないため、活用できるデータベース構築は望めない。よって、県事業(ふるさと雇用再生webサイト活用ビジネスモデル構築事業)と統合していく。</p> <p>◆空き店舗を活用した中心商店街での新商品のPR(1.5次産業) 「26 中心商店街でのアンテナショップの開設」の事業内容を検討した結果、統合していく。</p>		
<p>①セミナーに、32人参加し、実施できた。 ②県の事業と統合するよう協議を継続中。 ③県の事業と統合する。 ④調査継続中。</p>		

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <請じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>22 「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想 3-3</p> <p>県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産地の連携によって「産地直銷」「産地外販」「5次産業」「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国こうち」の実現を目指す。</p>	<p>◆新市場の開拓</p>	<p>商工会議所と来年度の事業について協議。</p>
<p>23 環境に優しい低炭素なまちづくりを目指した「環境維新」</p> <p>エコ商品を取り扱っている企業等の製品・技術・活動などの紹介や、食材の廃棄物の商品化に向けた取組を通じて、環境に関する産業の振興につなげるとともに、環境に優しい低炭素なまちづくりに資する。</p>	<p>情報収集の方法とPR、情報提供の方法</p> <p>エコ団体のこの取組に関連する活動が休止中</p> <p>食料品製造業では適当な廃棄用食材が見当たらない</p>	<p>・食料品製造業者への企業訪問、アンケート調査の実施</p> <p>・関係法令(食品リサイクル法、廃棄物対策法等)の調査</p>
<p>24 コンテンツビジネスの創出に向けた取り組みの推進</p> <p>漫画をはじめとする本県の特色ある地域コンテンツをビジネスにつなげる取組を進めることにより、外貨の獲得や新たな雇用の創出を目指す。</p>	<p>○推進する方向性、組織が確立されていない。</p> <p>○県内クリエイターの実態(ジャンル別の人数、活動頻度等)をはじめとして、コンテンツ産業に関する情報の不足</p>	<p>○高知県コンテンツ産業推進会議の設置</p> <p>・県内のコンテンツ産業関係者・クリエイター・行政関係者の19名で構成</p> <p>・2回開催(県の来年度事業の検討、人材育成研究会及びビジネス推進研究会の設置)</p> <p>○高知まんが・コンテンツビジネス創出塾(国費事業)</p> <p>・3回開催(全5回) 本県のコンテンツ産業振興のためのビジネスモデルプランを検討</p> <p>○クリエイター実態調査の実施</p> <p>・9月~11月 約650通配布し、290通回答(回答率45%) ヒアリング調査12名</p>
<p>25 おかみさん市の拡充</p> <p>◆中心商店街において、県内各地域の産品を紹介・販売する場として「おかみさん市」の拡充を図り、地域産品の県内中心部での認知度の向上やブランドアップに向けた取組を進め、地域の生産者の収入の確保につなげるとともに、商店街の売上げの増加を目指す。</p>	<p>◆現在の出店者との調整</p> <p>◆出店希望者の掘り起こし</p>	<p>◆出店ルールの策定</p> <p>◆現在の出店者に新ルールを説明(おかみさん市実行委員会)</p> <p>◆出店希望者の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援企画員を通じた市町村等への呼び掛け ・ふるさとまつりでの紹介、呼びかけ
<p>26 中心商店街でのアンテナショップの開設</p> <p>◆中心商店街において、売場のアンテナショップを開設し、地域産品の販売促進や都市部の住民を対象にしたマーケティングサービスにより、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加を目指す。</p>	<p>◆国、県、高知市、事業者の連携と行政の支援</p> <p>◆事業の詳細決定と具体化(店舗改装、従業員の採用・研修、POSシステム開発、HP作成等)</p> <p>◆県内各地域からの商品集め</p>	<p>◆国、県、市、事業者の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域商店街活性化法に基づく計画の申請 ・国の補助金の要望書提出 ・国の補助金の交付申請 <p>◆県の支援策の決定(9月議会:中心商店街活性化モデル事業費補助金)</p> <p>◆高知市の支援策の検討(12月議会に提案予定)</p>
<p>27 安心・安全・快適な商店街づくり</p> <p>商店街の設備やサービスの充実により、来街者の増加や滞在時間の延長を促し、商店街の活性化につなげる</p>	<p>【エコバッグ事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」の採択待ち ・商店街でのエコバッグ普及のため、協力店舗の拡大と特典の発案が必要 <p>【ワゴンセール事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントと商売が一体となった取り組みの検討 ・国の補助事業の活用検討 ・アンテナショップとの連携 <p>【吾番街商店街アーケード改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来街者を快く迎える環境づくり 	<p>【吾番街商店街アーケード改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小小売商業振興法による商店街整備計画の県知事認定 ・国の中小商業活力向上事業の事業採択

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
12月中に会議所としての実施事業の決定をする。(予定)		
<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造業者におけるリユース、リサイクル可能な廃棄用食材の実態把握 ⇒現時点ではリユース、リサイクル可能な廃棄用食材は見つかっていない。 (2月末のアンケート調査及び企業訪問による情報収集は継続) ・廃棄物の活用にもなる法規制等の課題の把握 		<p>(市内業者が取り扱うエコ商品の情報を提供することにより、市民が身近に環境を感じ、率先して環境負荷の商品や製品を使用し、環境保全や温暖化対策に寄与する素地を形成すること。)</p> <p>廃棄食材を可能な限りリユース、リサイクルすることにより環境負荷の低減を図る。)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○行政の取り組みと民間が行うビジネスの整理、支援する対象分野の絞り込み、コーディネーター・プロデューサー不在などの課題抽出 ○3つのビジネスモデルプランを検討 ○クリエイターの実態の把握 ・困っていること(依頼が少ないこと、活動資金が不足していること、活動の場が少ないこと) ・希望する行政のサポート(広報・宣伝などの情報発信、受発注者のマッチング、展示会等の施設利用の減額) ・高知県クリエイターデータベース構築時の登録希望者(回答者の70%<個人73%、団体65%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンテンツ産業振興に向けた取組への参加者の拡大、意識の共有化、方向性の確認が進む。 ○来年度事業実施に向けた協力態勢が構築される。 ○ビジネスモデルプランがまとまる。 	<p>(○複数の中核的な企業とそれを支えるグループ企業群の形成)</p> <p>(○コンテンツビジネスの起業化件数:1件)</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ◆中心商店街の空き店舗の解消 ◆商店街等の通行量の減少傾向に歯止め
<ul style="list-style-type: none"> ◆地域商店街活性化法に基づく計画に係る国の認定 ◆国の補助金の要望採択 		<ul style="list-style-type: none"> ◆中心商店街の空き店舗の解消 ◆商店街等の通行量の減少傾向に歯止め
<ul style="list-style-type: none"> 【吉番街商店街アーケード改修工事】 ・約2,300㎡の屋根の張替え及び照明機器等の取替え 	<ul style="list-style-type: none"> 【吉番街商店街アーケード改修工事】 ・屋根の改修による太陽光の積極的な取り込みや、照明機器等の取替えによる省エネ効果 ・来街者の安全確保と商店街のイメージアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の解消 ・通行量の減少傾向に歯止め

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜高知市地域＞

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞
<p>28 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上</p> <p>多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取り組みを進める</p>	<p>・兼案に基づく具体的施策の洗い出し ・県産業振興計画、高知市地域アクションプランなど、他の計画との整合性</p>	<p>既存の活性化事業の現況把握と新規事業の洗い出し</p>
<p>29 体験型観光推進のための組織づくり</p> <p>近隣地域との連携を強化して広域観光圏を形成し、「滞在型」体験型観光を推進するため、広域観光周遊ルートづくりや関係各所への一元的な対応などを行う地域コーディネート組織の確立を目指すとともに、広域観光の魅力をさらに向上させ取組を進める。</p>	<p>・近隣市町村には多くの観光資源が存在するものの、一体となった広域連携が図れていない。</p>	<p>関係市町村観光所管課と広域観光について意見交換を行った。(香南市、南国市、香美市、いの町)</p>
<p>30 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立 2-1</p> <p>全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。</p>	<p>・全国に広がり日本の祭りの一つとして成長する高知のよさこい祭りが海外ではあまり認知がされていない</p>	
<p>30 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立 2-2</p> <p>全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。</p>	<p>◆「よさこい」ブランドの確立</p>	<p>①スーパーよさこいで「鳴子賞」の授与 ④スーパーよさこいで鳴子組立美演とデコ鳴子製作の支援 ④鳴子のデザインコンテスト実施 応募総数149件</p>
<p>31 映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致</p> <p>「よさこい祭り」を題材にした映画の製作を支援し、「よさこい」発祥の地として全国にアピールするとともに、ロケ地を観光ループ化することにより、観光客の増加につなげる。</p>	<p>・高知がよさこい鳴子踊り発祥の地であることが、全国でまだまだ知られていない</p>	<p>・高知のよさこいをテーマにした映画の高知ロケの実施が決定したことから、県・市でロケに対して支援を行った</p>
<p>32 観光情報の集約と情報発信力の強化</p> <p>観光客の多様なニーズに対応するため、観光と物産に関する情報を集約するとともに、インターネットを積極的に活用して、多様で特色あるPRを推進する。</p>	<p>・高知を訪れた観光客の方々からは、非常に高い評価をいただいているものの、高知の観光情報が届いておらず、情報発信が十分でない。</p>	<p>・webマガジン「旅色」高知版の作成・掲載 ・【県主催】情報共有会議の開催：4回</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
基本計画掲載事業の検討	基本計画掲載事業の選定	
	・関係市町村と広域観光を進めるための意識の醸成ができ始めた。	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
		観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ①県外への鳴子のPR ②県外への鳴子のPR ③県外への鳴子のPR(約90%が県外からの申し込み) ・一般の部(高知(自然)、和風)、ジュニアの部(小学校6年生まで)(自由テーマ)の各賞、審査員特別賞の授与 ・受賞作品HP掲載なし ・受賞作品の商品化なし 	<ul style="list-style-type: none"> ①よさこいの本場は、高知であることをPR ②鳴子に触れることによる高知のPR 	観光客の入込み数 300万人
<ul style="list-style-type: none"> ・よさこいをテーマとした映画の高知ロケの実施 ・映画を活用した誘客の取組を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年9月に予定される上映期間中や、上映以降に於いての映画を活用した高知県、高知市への観光PR等について、映画会社から協力を得られる予定。 	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・webマガジン「旅色」全体のページビュー:140万ページビュー ・webマガジン「旅色」読者数:86万人 ※上記の数値は、21年9月の一ヶ月間の集計数 		観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>33 「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大</p> <p>「エンジン01オープンカレッジin高知」を観光振興の絶好の機会としてとらえ、「エンジン01」会員への高知の魅力をアピールを通じて、県外観光客の誘致につなげる。</p>	<p>・著名人にどれだけ高知県の地場産品のファンになってもらい、PRに役立ててもらえるかは、各市町村のアプローチ、やる気次第。</p>	<p>・【高知県】開催事業費負担金 4,000千円 ・【高知市】開催事業費負担金 8,000千円 ・【(財)高知県市町村振興協会】助成金 5,000千円 ・【文化庁】助成金(ミュージカル) 19,000千円 ・エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジin高知」の開催 ウエルカムパーティーの開催(「土佐の料理伝承人」28団体協力) ふるさと市の開催(28小間) 夜楽の開催(25教室) 大小約50の講座の開催など 陣中見舞いの送付</p>
<p>34 温泉開発による観光地としての魅力の向上</p> <p>観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につながる。</p>	<p>・観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会が策定した「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」により、高知市中心部における温泉観光地化のための温泉水確保については、既存施設利用、配湯手段タンクローリー利用が最も経済的かつ合理的であるという結果が出された。ついでに、この結果に基づき、実行に向けた検討を関係者が進める必要がある。</p>	<p>・高知県中小企業団体中央会の補助事業を活用して高知市中心部における温泉観光地化に向けた計画の策定を行った。 ・観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会の開催(5回)</p>
<p>35 「龍馬伝」を契機とした観光の振興</p> <p>坂本龍馬の志や生き様に触れようと、全国から数多くの龍馬ファンや観光客が訪れる中で、2010年のNHKの大河ドラマ「龍馬伝」を契機として、さらなる観光振興につなげる。</p>	<p>新たな観光資源として、10月からスタートした龍馬の生まれたまち歩きコースの更なる拡充と観光遊覧船で訪れた観光客の他の観光地への誘導策の検討。</p>	<p>・高知市補助金および県産業振興推進総合支援事業費補助金の事業採択(観光遊覧船の3隻目購入等) ・「土佐・龍馬であい博イベント事業」の実施 龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～(6コース)の開始 桂浜観月の夕べ～龍馬と愛する月の宴～の開催 龍馬に大接近の開催 「龍馬の足跡を画く絵画展」の開催</p>
<p>36 アユ群れる清流鏡川などの天然素材を活かした観光客の誘致</p> <p>鏡川での天然アユ漁と100万尾の実現によるイメージアップを活かして、多様なメニュー・リズムを展開する。</p>	<p>・今年度は、高知市環境保全課が主導で事業を進めているが、浦戸湾での漁業体験、鏡川での環境学習を参加費をとって客の呼べる体験プログラムに盛り上げるためには、観光サイド又は一次産業部門のセクションが中心になって事業を進める必要がある。 ・環境部門のセクションが主体となって事業を続ける限り、次のステップに進むことは困難。</p>	<p>・国からの「地方の元気再生事業」の委託事業 ・鏡川河口域のアユの生態調査の実施 ・「漁業体験エコツアーin浦戸湾」の実施 ・「まるごと体験!鏡川!」の実施 ・「わくわく清流体験」の実施</p>
<p>37 食による観光の推進と地域物産との連携 2-1</p> <p>高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。</p>	<p>・今回グランプリで選んだ料理をどれだけ多くの協力店が販売し、関係機関がPRし、名物料理まで育てることができるか関係者の協力が不可欠。</p>	<p>・国からの「地方の元気再生事業」の委託事業 ・新名物料理アイデア募集(7/25～9/30) ・「高知日級グルメ維新!テーマ:高知の名物麺、名物丼」高知が誇る以下の食材を1種類以上使用した種類又は丼を昇業(ニラ、ナス、しょうが、みょうが、ししとう、ゆず、シラス)</p>
<p>37 食による観光の推進と地域物産との連携 2-2</p> <p>高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。併せて再生可能な間伐材を利用したお箸(飯杓はりまや箸)を製作し、観光客にお土産として持ち帰っていただき、環境にやさしい高知をPRすることを検討する。</p>	<p>◆地域物産の活用と名産品の育成</p>	<p>・はりまやはし(県内産)セット検討</p>

アウトプット(結果) インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと	アウトカム(成果) アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと	目標(H23)
<ul style="list-style-type: none"> ・プレオープニングシンポジウム(11/26):参加者450人 ・オープニングシンポジウム(11/27):参加者900人 ・ウエルカムパーティー(11/27):参加者300人 ・教室・ワークショップ40講座(11/28):参加者7,250人 ・特別教室3講座(11/28):参加者3,080人 ・夜業25教室(11/28):参加者1,032人 ・クロージングシンポジウム(11/29)(PART1,2):参加者1,400人 ・ミュージカル(11/29):参加者1,052人 ・各界の著名人約120名出席 ・高知県観光大使23名就任 ・林真理子氏など著名人がブログ等でエンジン01及び高知県について情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知商工会議所青年部や(社)高知青年会議所のスタッフは、今回の大会運営を通して、今回高知を訪れた著名人と関係を築くことができた。 ・土佐のおきゃくの食談に今回訪れた著名人に出席してもらうよう交渉中。 ・ウエルカムパーティーには、市町村長も出席しており、出席した著名人に地元市町村をアピールする姿も見られた。 	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」ができたことにより、今後は具体的な事業計画策定段階に移行する。 	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～(6コース、10月3日スタート)10月実績:参加者90名、11月実績:参加者140名 ・桂浜親月の夕べ～龍馬と愛でる月の宴～ 実績:5,050名(延べ5日間) ・龍馬に大接近(10月17日～12月6日:51日間) 入場者数:22,927名(11月23日までの実績(38日間)) ・「龍馬の足跡を画く絵画展」(11月9日～11月23日) 実績:3,930名 	<ul style="list-style-type: none"> ・「土佐・龍馬であい博イベント」を実施したこと等により、大河ドラマ「龍馬伝」放送を前に、龍馬関係の観光施設が前年に比べて増えてきているなど、誘客効果が出始めている。 龍馬の生まれたまち記念館の入館者数 4,131人(H20.11)⇒5,351人(H21.11)【対前年比:129.5%】 坂本龍馬記念館の入館者数 14,612人(H20.11)⇒18,334人(H21.11)【対前年比:125.5%】 	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・「漁業体験エコツアーズin浦戸湾」の参加者21名 ・「まるごと体験!鏡川!」の参加者46名 ・「わくわく源流体験」の参加者32名 	<ul style="list-style-type: none"> ・浦戸湾、鏡川、葛蒲洞など高知市の自然を活かした体験プログラムの枠組みができた。 	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・応募作品108点 ・グランプリ2点(丼部門)「なるこ丼」、めん部門「しらすラーメン」 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の食材を活かした一押しの日級グルメメニューを選ぶことができた。 	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・はりまやはし(県内産)セット完成 ・すべて高知産であり、高知発の新しいお土産品として期待できる。 		観光客の入込み数 300万人